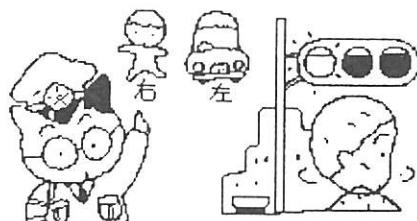
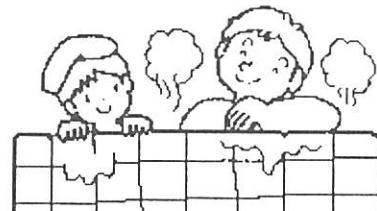


第6章

理解を得るために



無いものねだり

＜予想される問題点と対策＞



鳴り物いりでスタートした「生活科」ですが、この実施に当たっていろいろと問題提起がなされています。

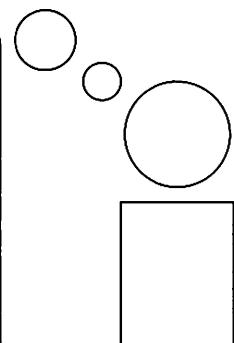
先日、札幌市教育委員会の管理課の方が、次のようなことを話されていました。

今年は各学校から生活科関連の予算要求がとても多いんですよ。

もちろん、子どもたちのために必要であるならば、予算の枠の制約があるにしても、すぐにでもそれに応えていきたいと考えています。

でも、過去に学校の要求で多少の無理をして作った施設が、数年後には活用されていないこともあったんです。

そんな様子を目にして、作った側としては、正直悲しくなってしまいですよ。

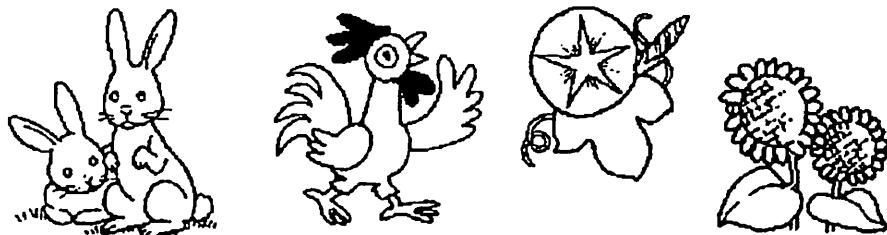


このことを学校現場にいる者として指摘された時、私は、「生活科」に限ってそのような誤りを犯してはならないと思うのです。

なぜなら、生活科はそれぞれの学校を取り巻く地域環境の実情を十分考慮して、その教育課程を編成していかなければならぬことに由来するからです。

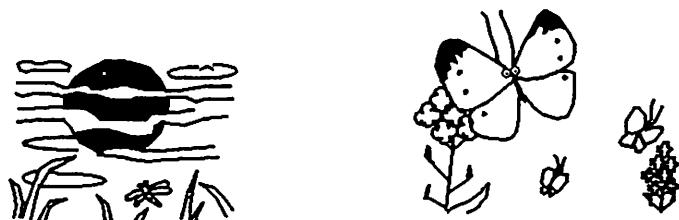
つまり、生活科の学習のステージは、学校・家庭・地域であるだけに、それにあるがままの姿を先ずもって捉えなければ、この学習は存立しえないということなのです。

確かに、飼育栽培の活動として、アサガオ・ヒマワリ・ミニトマト・枝豆・とうもろこし、そしてうさぎ・にわとり・ハムスター・ザリガニ・カイコ・コオロギ・金魚・メダカ等が取り上げられています。



しかし、生活科の学習で、教材として○○や△△がないとできない、という考えがまだ残っているのは残念であると思うのです。

地域に根ざし、地域の環境を生かした生活科であるために、もっともっと地域を踏査し、色々発見してみようとするに汗を流してみましょう。



地域の公園にはどんな木があるかその一本一本を知ることも大変大切でしょうし、老人クラブとのふれあいで、きっとすばらしい「△△の先生」との出会いもあることでしょう。

こうした地域環境の人的・物的教材の発掘を十分にしてこそ、真に生活科のねらうところに行きつくのではないかでしょうか。

家庭との相互理解を便りで

平成4年○月○○日

1・2年生父母各位

札幌市立○○小学校

校長 ○ ○ ○ ○

生活科についてのお知らせ

“生活科”と聞いて「生活科とはどんな勉強だろうか？」とお思いになれた方もおられるかと存じます。

すでに、父母懇談会等でもお話しておりますが、生活科が生まれた経過やねらいなどについてお知らせ致します。

★ 生活科が生まれたのは…

今までの社会科・理科では、社会事象や自然事象を認識・理解するというねらいがありました。学習内容に問題があったわけではなく、学習の進め方がどうも低学年の子どもの発達段階に合わない、もっと子どもの自主性・自発性を育てる学習方法はないかと、20年も検討され続けてきました。

その結果、平成4年度から1・2年生に「生活科」として新しい教科が誕生したのです。

★ 生活科ではこんな勉強を…

生活科の究極の目標は、「自立への基礎を養う」ことにあります。従って、今まで以上に具体的な活動や体験を重視しますので、教室から離れた場で学習する機会が多くなります。

- 小動物と触れ合う
- 公園や野原に出かける
- 路線バスの利用や商店での買い物などをする
- 父母の方や地域の人に来て頂いてお話を聞いたり教えてもらうなどの学習活動が考えられます。

★ ご家庭では…

家庭生活の中では、生活科の素材がいっぱいです。家の中にも、道路を歩くときにも、乗り物にも、公園の遊びの中にもたくさんあります。

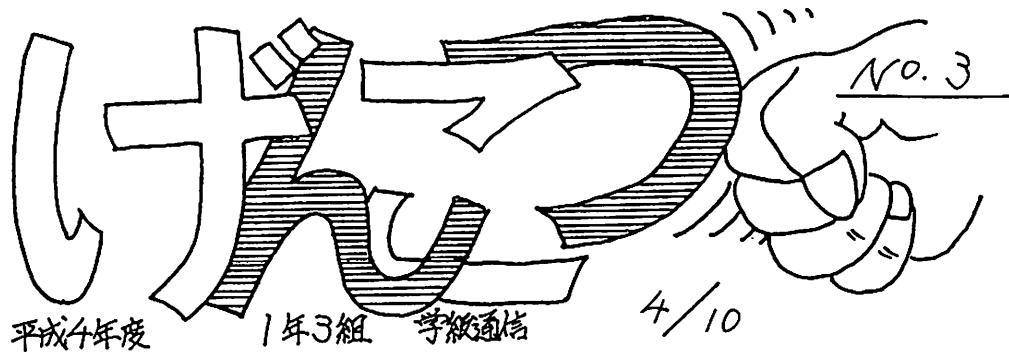
電話の受け答えや、自分で乗車券を買って乗り降りしたり、お使いの買い物をしたり、公園などの公共施設を友達と仲良く利用するなど、できるだけ子ども自身の判断で行動させ、生活意欲や行動意欲が高まるような体験をさせて頂くことが望ましいのです。

★ 生活科でこんな子どもに…

- 世話や育てたりすることを楽しむ子ども
- 身近な人に感謝の気持ちを表現できる子ども
- 家族と共に暮らしを楽しみ、自分の役割を自覚する子ども 等々

学級通信で生活科の

具体的に生活科という教科は、どんなことをするのかを家庭に知ってもらうことは、とても大切なことです。参観日に授業を公開するのも良い機会でしょう。また、学級・学年通信で趣旨を理解してもらったり、家庭との連携で子どもを育てることを啓蒙することも必要でしょう。



生活科 ぼくは～です。名刺作りでスタート

生活科は、頭で何かを理解する教科ではありません。身体を使う活動を通して、学習する楽しさや、表現する楽しさを体験させる教科です。

入学して1週間が過ぎました。友だち作りの一環として、「名刺作り」をいたしました。どの子どもも楽しそうにカードを作っていました。

連絡番号や住所は必要ありません。自分のことを楽しく表現できることがねらいです。学級名・氏名を書いて好きな絵・得意な絵をかきました。

さて、お子さんの好きなものは、何でしょうか？

活動を伝えましょう

連絡や協力依頼はもとより、担任として

子どもたちを～のように見ていますよ！

こんな活動を設定した趣旨は～ですよ！

子どものがんばった様子をタイムリーに掲載することが大切です。

1ねん 3くみ

くつさりゅうさき



好きなものは

りんご

くさ
かいに
いこ
てまに
いでこ
ましこ
ましいお
た。し
ょく
うけ
ん
めで
いす。

きょうから なかよく して ください。

1ねん 4くみ

よしだふう



思
い
ま
す。
く
し
う
か
ら
來
た
よ
う
こ
と
ん
い
す
く
と
う
か
ん
け
ー
ム
で
す。

好きなものは

こどり

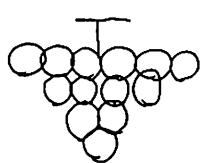
きょうから なかよく して ください。

くしゃくしゃ、ぜんいんぶんを

けいさいいたします

1ねん 3くみ

くさりゅうぶゆき



好きなものは

ぶどう

きょうから なかよく して ください。

くゆ
かき
いく
てん
いでも
ます。
し
や
く
り
面
てな
い
ねの
いぶ

1ねん 3くみ

おりはらひこのり



すりか

きょうから なかよく して ください。

気
め
ん
い
し
一
う
か
ん
ケ
ー
ム
で
す。
マ
ン
が
と
く
い
な
じ
ょ
う
ひ
ろ
の
り
く
人
ね

入学説明会で理解を…

入学への喜び・期待と不安の入り交じった心境の父母を前にして、『学校は楽しいところ』というイメージを子どもに持たせるよう、子どもの好奇心、活動意欲をうまくとらえ、子どもを励ましていただくよう説明しましょう。

学校生活を楽しむ

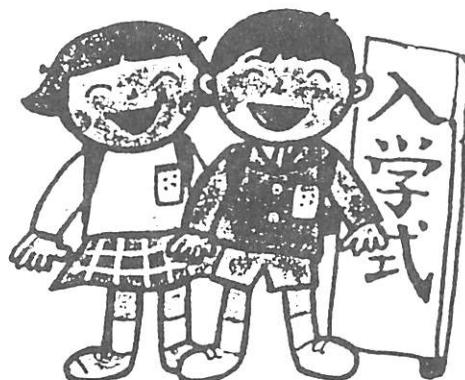
先生や友達と仲良く生活ができる

一緒にいろいろなことができる

自分でできるという自信

何かしてみたいという意欲

具体的な活動や体験を通して



楽しい生活科

生活科とは？

子どもたちに、身近な環境の中で具体的な活動や体験をさせ、自然や社会とのかかわりに关心を持たせたり、自分自身や生活について考えさせたりして、生活に必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う

主体的な生活者に育つこと

体験を重視する

生活科は具体的な活動や体験を通して、体全体で学ぶ教科です。

あれこれと知識を覚えるのではなく、生きて働く知恵を身につけることをめざしています。その活動は、見る・調べる・作る・育てる・遊ぶなどです。活動したことや自分の考えを言葉・文・絵・動作・劇などで表現することを大切にした学習です。遊びも学習として認められているのも特徴的です。

一人ひとりの良さを育てる

生活科には、自分自身についての学習があります。単に自然や社会のことだけを学ぶのではなく、自分はどのようにかかわるのか、ということを学びます。ここが従来の社会科・理科と大きく違うところです。集団生活に慣れ、自分の在り方に気づくこと、自分の成長に気づくこと、自分の得意なことに自信を持ち生活できることをめざしている教科です。

＜原稿例＞

すぐに始まる『学校探検』を例にして期待感を持たせてはいかがでしょうか。

学校には、何があるの？

友達と一緒に調べれる？

知りたい、やってみたいという気持ちを持たせ、どのようにすれば具体的に実現できるのかを考えさせましょう。

安心感や楽しさを持たせたいのです。父母に学校施設の写真パネル一枚提示しても効果的でしょう。

幼児期までに培ってきた信頼感と自立へのめばえを一層確かにしていく教科です。子どもたちの知的好奇心や冒険心、あるいは探求心などを満たしながら、何事にも自信を持ち、新しいことに積極的に取り組んで行こうとする活力のある人間へと育てる教科です。

家庭との連携プレイで…

言うまでもなく、生活科は“子ども自身の生活に根ざした活動”を取り上げているのですが、学校で学習したことがらが、子どもたちのくらしの中に生かされることが大切です。そのためには、家庭と学校が大切であって、学習前と学習後の密接な情報交流が欠かせません。

そこで、いくつかの単元を抽出して、学習後又は学習中の子どもの家庭での様子や生活科に関する父母の意見や感想をアンケートなどで知り、その後の実践に役立てる工夫をしてみてはどうでしょうか。



「野菜の栽培でも父母との連携がありました。」

アンケート《まちたんけんを例にして》

1. 学習を通して、お子さんの遊びは変わりましたか？
(例として、友達が増えたなど)
2. 行動範囲は広がりましたか？
(例として、遠くの公園まで出かけるようになったなど)
3. お使いなどは、喜んでするようになりましたか？
(例として、いろいろな商店に行きたがるなど)